

【教育目標『自律』『創造』『協働』重点目標「互いの良さを認め、学び合いを通して自己を高めよう」】



学校だより



u k i f u n e

令和6年11月28日(木)
第30号

〒979-2157
南相馬市小高区吉名字中坪1

TEL 0244-44-2023

「いる」

詩人で、全国で数多くの学校の校歌を手がけてきた谷川俊太郎さんが今月13日、老衰のためお亡くなりになりました。享年92歳でした。県内でもいくつもの学校に校歌を残し、相双地区では福島県立ふたば未来学園や大熊町立学び舎ゆめの森の校歌の作詞をされたことは記憶に新しいところです。本校でも未だ戦禍の続くロシアによるウクライナ侵攻が勃発した際、生徒たちに「戦争」についてその善し悪しについて考えるだけでなく、両国の国民に対する心情に思いを寄せるため、谷川さんの絵本「へいわとせんそう」を学校図書として購入し、生徒たちの目に触れさせました。谷川さんの平易な言葉遣いのなかに込められた深いメッセージに触れることで、生徒たちが頭で考えること以上に心で感じることの大切さに目を向けられるものと期待しました。訃報には他方面からのコメントが寄せられており、国語の教科書を出版する会社の公式アカウントでは、「小学校6年『生きる』、中学校1年の『朝のリレー』など数多くの作品に紡がれた珠玉の言葉と感受性は、子どもたちの心に深く刻まれました。谷川俊太郎さんのご冥福を心からお祈り申し上げます」と追悼しています。



以下に谷川俊太郎さんの詩の中で私が気に入っている一編を紹介いたします。

『い』
ぼくはしてる
なにかをしてる
でもそれよりまえにぼくはいる
ここにいる
ねむっていてもぼくはいる
ぼんやりしてもぼくはいる
なにもしてなかったってぼくはいる どこかに
きはたってるだけでなにもしてない
さかなはおよいでいるだけでなにもしてない
こどもはあそんでるだけでなにもしてない
でもみんないきて「いる」
だれかがどこかにいるのっていいね
たとえとおくにはなれていても
いるんだ いてくれるんだ
とおもうだけだのしくなる

「詩の風景すき」
作家 谷川俊太郎
画家 齋藤 廣達
発行所 榊理論社

歯(は)っぴースマイル事業(歯科指導)を実施しました

今週26日(火)、南相馬市「歯(は)っぴースマイル事業」として全校生が歯科指導を受講しました。2名の歯科衛生士の方を講師としてお迎えし、生徒たちは適切な歯磨き法などについて教えていただきました。昨年度まで小学校でのみ行っていた

「フッ化物洗口」が、今年度は中学1年生にまで拡大されています。歯の健康は体の健康にもつながる非常に重要な役割を担っています。

